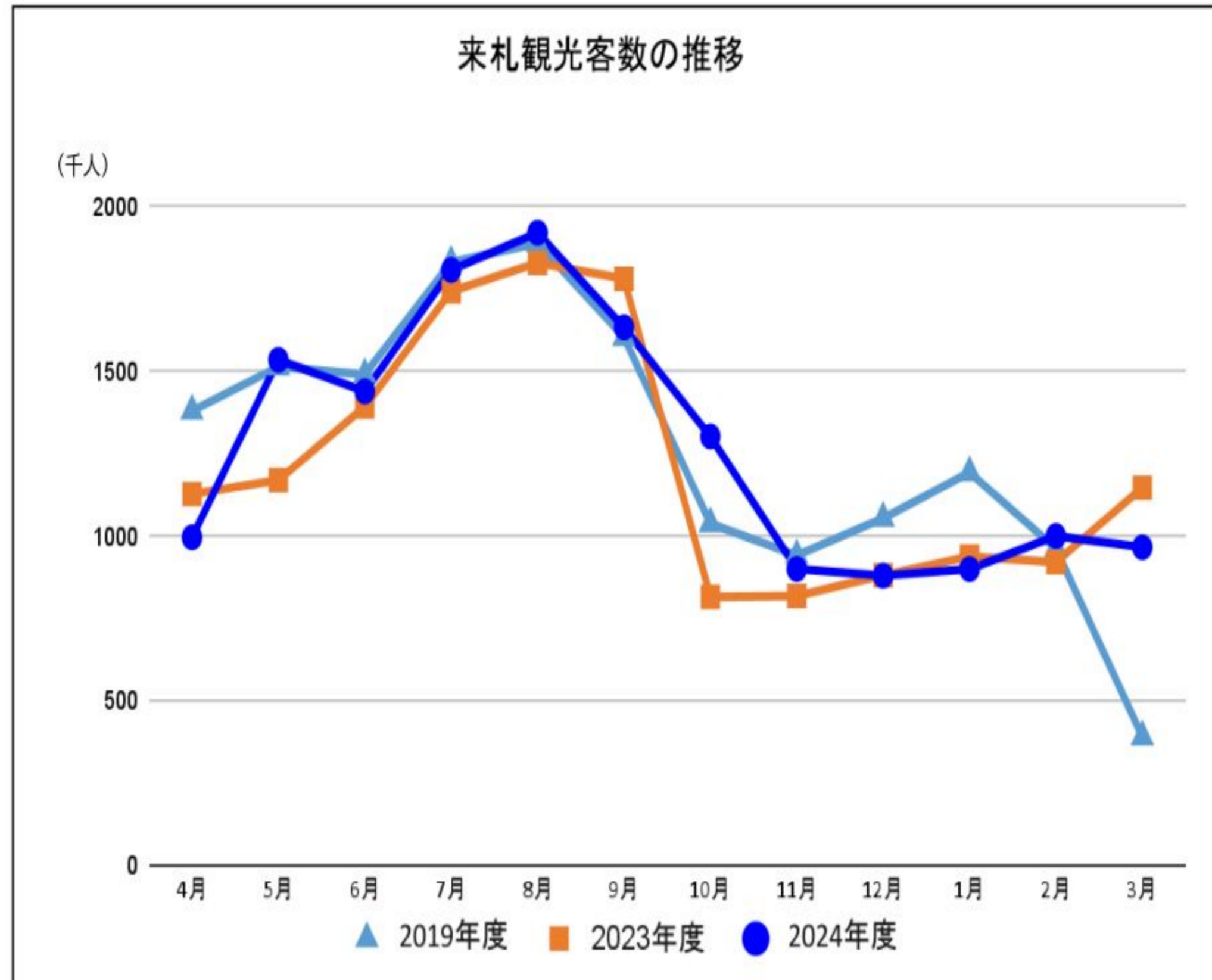


背景と目的

札幌は夏になると観光客が増えるため札幌を避暑地として利用し涼みに来ている人が多いのではと考えた。また札幌は本当に避暑地といえるのか関心が湧いた。

調査方法とその内容

- ①避暑地と暑地の約3年間分の気温と暑さ指数のデータを集める。
- ②データから「避暑地」の定義付けをする。
- ③その定義に札幌が当てはまるか検証。



順位	避暑地名	都道府県	割合
1位	軽井沢	長野県	52.7%
2位	富良野	北海道	52.4%
3位	那須高原	栃木県	39.3%
4位	上高地	長野県	36.5%
5位	箱根	神奈川県	29.6%
6位	奥日光	栃木県	27.2%
7位	清里高原	山梨県	26.2%
8位	十和田湖	秋田県、青森県	26.0%
9位	阿蘇	熊本県	23.4%
10位	六甲山	兵庫県	17.0%

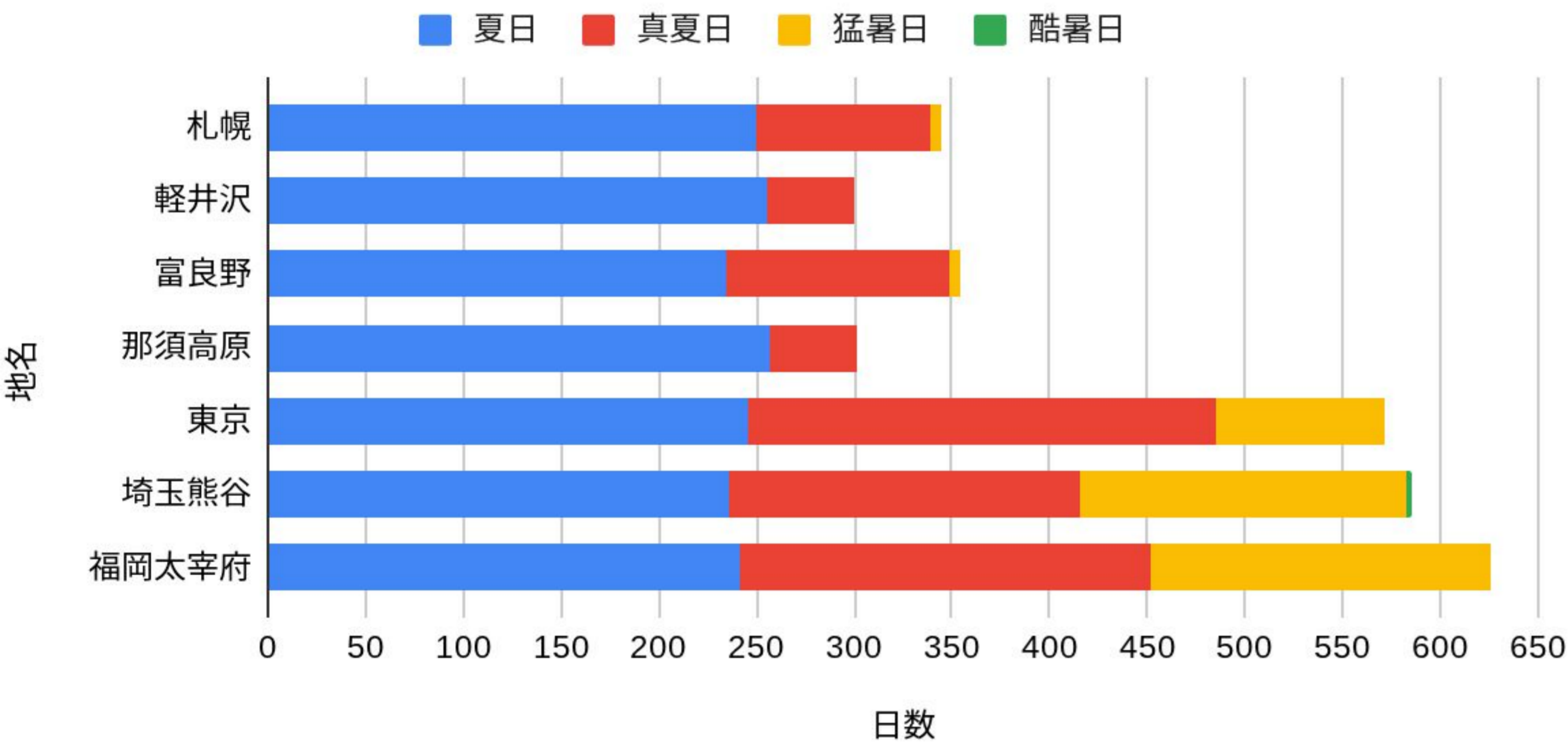
調査結果①

気温から夏日、真夏日、猛暑日、酷暑日の比較

避暑地: 軽井沢 富良野 那須高原
暑地: 東京 埼玉熊谷 福岡太宰府

夏日、真夏日、猛暑日、酷暑日

2022年1/1~2025年9/30 計1368日



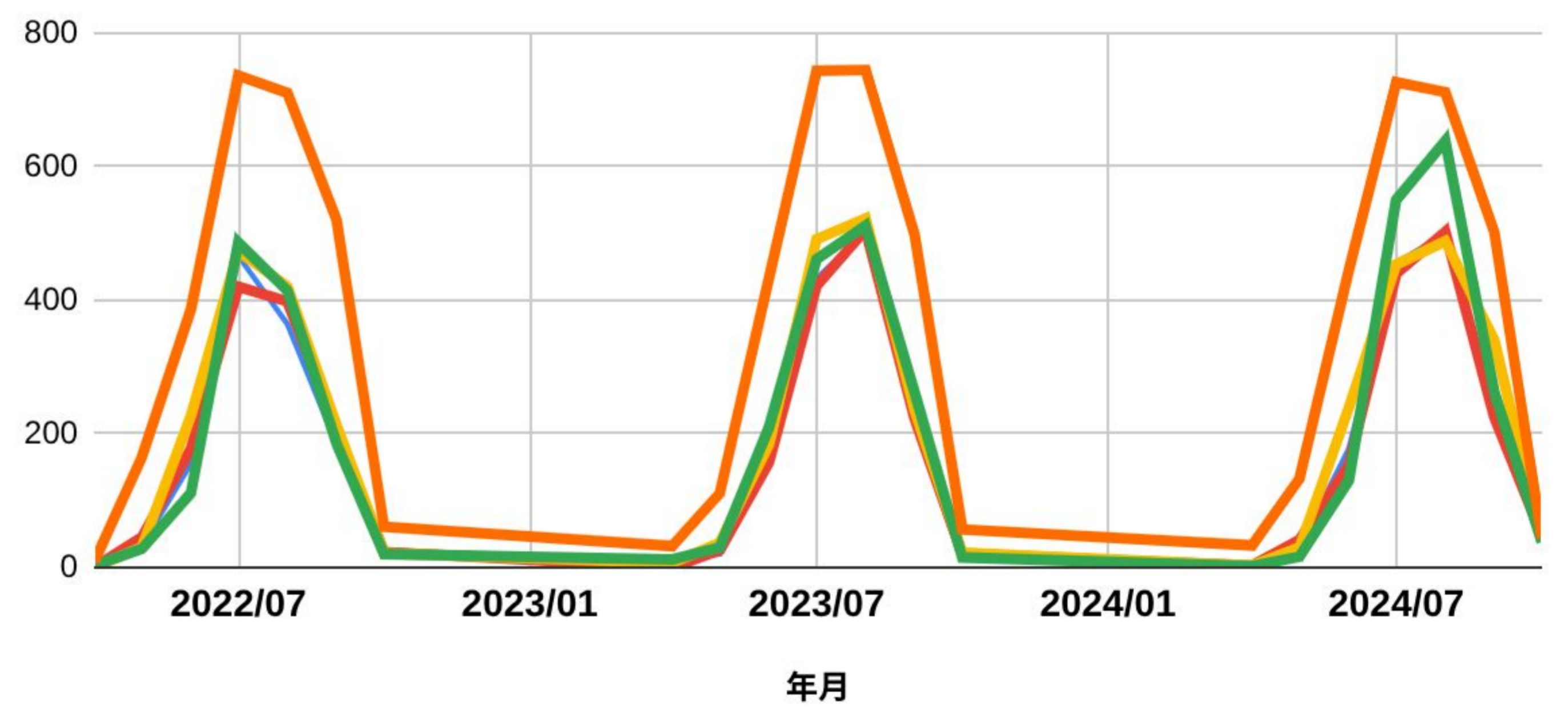
調査結果②

暑さ指数(WBGT)を21を超えた時間の比較

避暑地: 軽井沢 富良野 那須高原

5地域WBGT比較

— 富良野 — 軽井沢 — 那須高原 — 札幌 — 東京

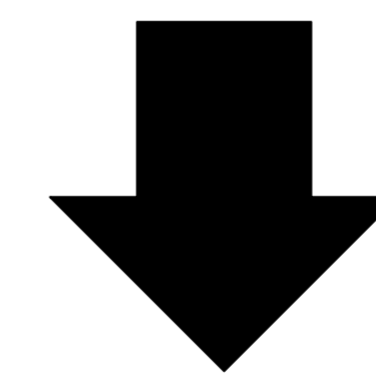


軽井沢 那須高原 富良野 札幌の t 検定

p値 0.772 p値=0.772>0.05

p 値が0.05を上回ったので統計的有意差はなし

軽井沢と那須高原と札幌に統計的有意差がない
これは暑さ指数の時間が避暑地と札幌に差がない



避暑地と言える

真夏日の日数でt-検定

避暑地平均 67.3 都市部平均 210.3

p値 0.0037 p値=0.0037<0.05

p値が0.05を下回ったので統計的優位差はあり、真夏日の日数だけでは避暑地と都市部を有意に分けられる。

避暑地の定義

真夏日120日未満 猛暑日62日未満

札幌は真夏日が89日、猛暑日が5日のため
避暑地と言える

結論

調査結果①と②から札幌は避暑地といえると考えた。

考察

これらから札幌は避暑地と呼べるため、大通公園・中島公園・豊平川など市内の緑地でのイベントを強化したり、大通公園など市内主要公園の日陰拡張、市街地から行ける山・川・海のアクティビティの交通導線の改善、気温の低さを生かしたアウトドア体験を充実させるなど、さらに観光業に力をいれるべきだと考えた。

「日本のクールシティ」としてのPRをしてイメージをつけたり札幌の食文化と結びつけていくことで札幌は避暑地というブランド化していくことが大切だと考えた。